

I. 調査結果

1. 人口

C0101-1 人口総数及び増加数

令和2年の山ノ内町の人口は11,352人で、いずれも都市計画区域内に居住している。町の人口は年々減少傾向にあり、平成12年から令和2年までの20年間に4,548人(28.6%)減少している。減少幅は平成17年に7.5%、平成22年に7.0%、平成27年は9.1%、令和2年は8.7%となっている。

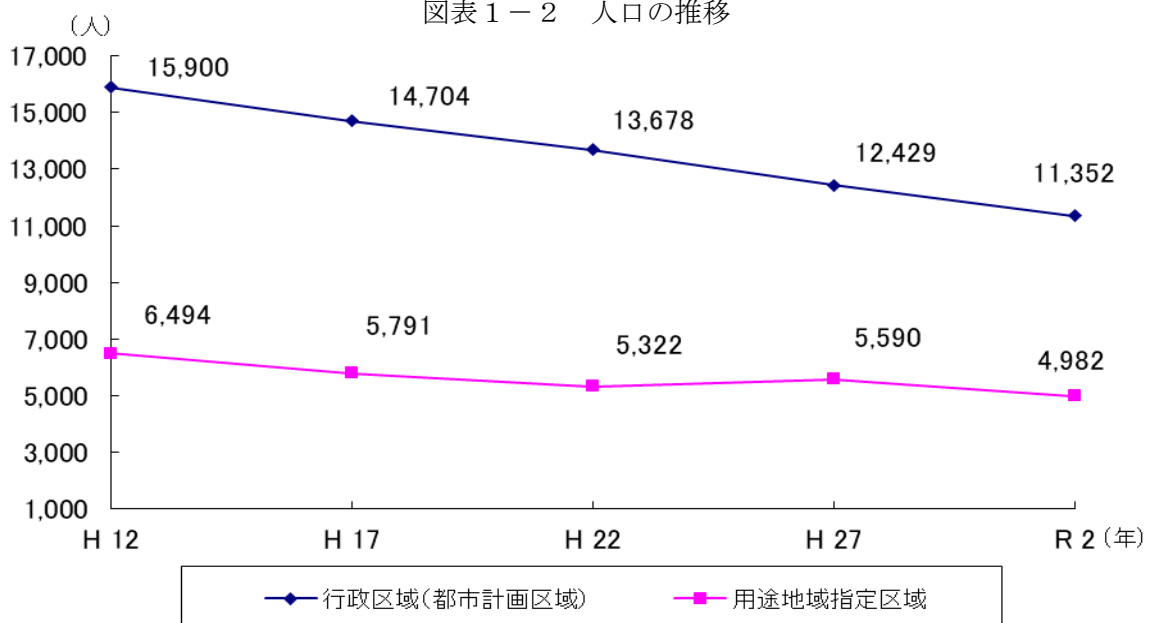
用途地域内人口は全人口の43.9%を占めている。令和2年の増減率をみると、行政区、用途地域ともに減少となっている。

図表1-1 人口総数及び増加数

(平成12, 17, 22, 27, 令和2年国勢調査 男女, 年齢(5歳階級), 国籍総数か日本人別人口)

年次	行政区			都市計画区域			用途地域指定区域		
	人口(人)	5年間の増減		人口(人)	5年間の増減		人口(人)	5年間の増減	
		人口(人)	率(%)		人口(人)	率(%)		人口(人)	率(%)
H12	15,900			15,900			6,494		
H17	14,704	▲1,196	▲7.5	14,704	▲1,196	▲7.5	5,791	▲703	▲10.8
H22	13,678	▲1,026	▲7.0	13,678	▲1,026	▲7.0	5,322	▲469	▲8.1
H27	12,429	▲1,249	▲9.1	12,429	▲1,249	▲9.1	5,590	268	5.0
R2	11,352	▲1,077	▲8.7	11,352	▲1,077	▲8.7	4,982	▲608	▲10.9

図表1-2 人口の推移



C0101-2 年齢・性別人口

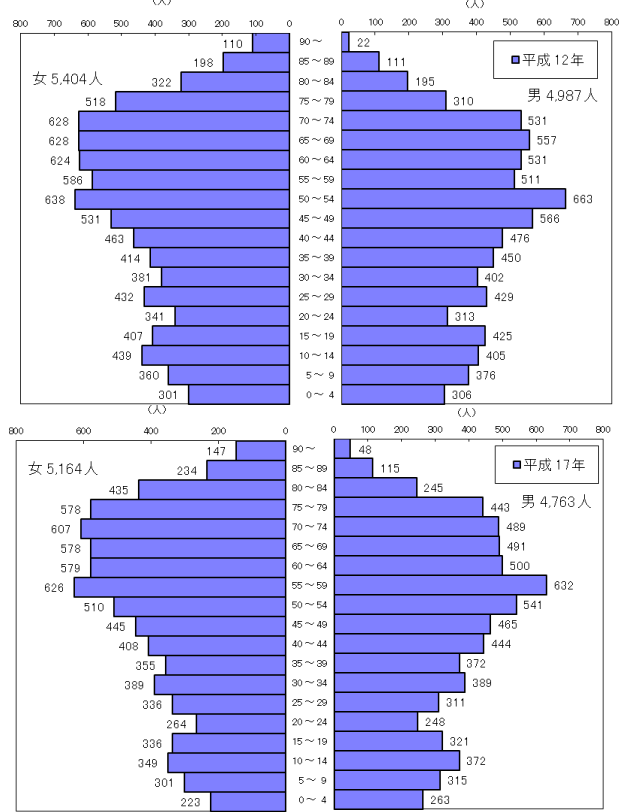
令和2年の総人口は11,352人（内34人年齢不詳）で、平成12年の15,900人から20年間で4,548人（28.6%）減少しており、特に平成22年から平成27年までの5年間の減少幅が大きい。年齢構成を平成12年と比較してみると、年少人口（0～14歳）の比率は13.8%から8.6%に減少し、出生率の低下による少子化の影響が顕著であり、少子化及び生産年齢人口（15～64歳）の減少による将来の労働力不足が懸念される。老年人口（65歳以上）の人口比率は26.0%から41.9%に増加し、高齢化が著しい。特に75歳以上の高齢者の比率が拡大している。15～24歳人口の推移をみると、平成12年の1,486人から令和2年には688人となり798人減少していて、20歳前後の若年層の流出傾向がうかがわれる。

図表1－3 年齢別人口推移

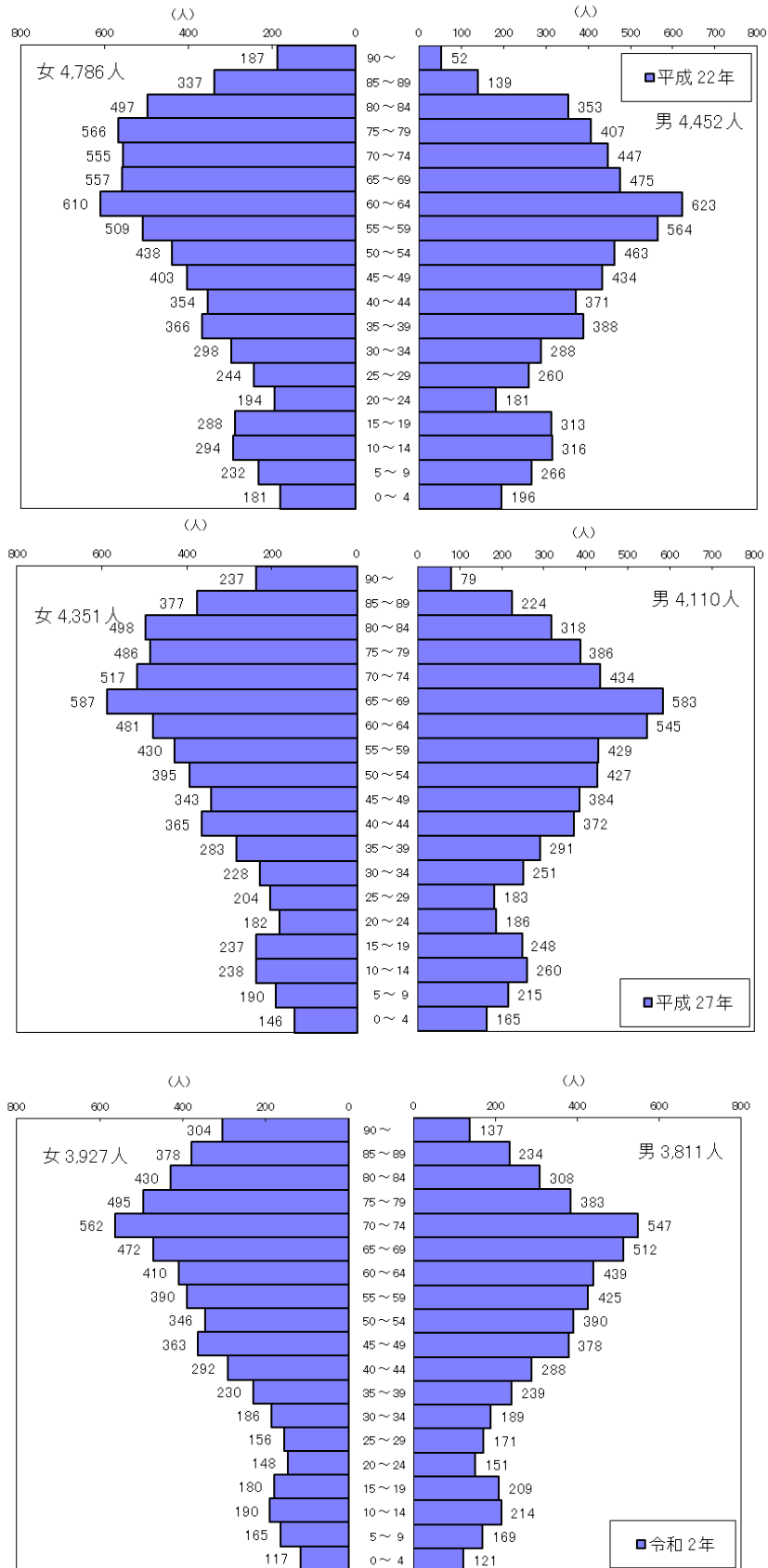
（平成12, 17, 22, 27, 令和2年国勢調査 男女、年齢(5歳階級)、国籍総数か日本人別人口）

区 分	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
年少人口 (0～14歳)	2,187	13.8	1,823	12.4	1,485	10.9	1,214	9.8	976	8.6
生産年齢人口 (15～64歳)	9,583	60.3	8,471	57.6	7,589	55.5	6,464	52.0	5,580	49.2
老年人口 (65歳～)	4,130	26.0	4,410	30.0	4,572	33.4	4,726	38.0	4,762	41.9
年齢不詳	—	—	—	—	32	0.2	25	0.2	34	0.3
総 計	15,900	100.0	14,704	100.0	13,678	100.0	12,429	100.0	11,352	100.0
人口の増減	▲ 1,041		▲ 1,196		▲ 1,026		▲ 1,249		▲ 1,077	

図表1－4 年代別人口構成比表（1/2）



図表 1－4 年代別人口構成比表 (2/2)



C0103 将来人口

将来人口の推計によると、総人口は令和 2 年の 11,318 人（年齢不詳の 34 人を除く）から徐々に減少し、令和 32 年までの 30 年間で 5,578 人（49.3%）まで減少すると予想される。年齢構成を見てみると、年少人口（0～14 歳）の比率は 8.6%から 5.1%に減少する一方で、老年人口（65 歳以上）は 41.9%から 56.7%まで増加する。令和 12 年には生産年齢人口（15 歳～64 歳）を老年人口が上回ると推計され、少子高齢化による労働力不足が懸念される。

図表 1－5 将来人口

（令和2年国勢調査、日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所、令和6年推計)）

		令和 2 年			令和 7 年			令和 12 年			令和 17 年			令和 22 年			令和 27 年			令和 32 年		
		総 数	男	女	総 数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女
総数		11,318	5,504	5,814	10,254	5,001	5,253	9,210	4,518	4,692	8,218	4,055	4,163	7,273	3,601	3,672	6,391	3,175	3,216	5,578	2,780	2,798
年 齢 階 級 別	0 ～ 4	238	121	117	172	88	84	146	75	71	127	65	62	108	55	53	88	45	43	70	36	34
	5 ～ 9	334	169	165	255	128	127	184	93	91	158	80	78	138	70	68	117	59	58	95	48	47
	10 ～ 14	404	214	190	335	169	166	256	128	128	185	93	92	159	80	79	139	70	69	118	59	59
	15 ～ 19	389	209	180	327	174	153	270	137	133	207	104	103	150	76	74	129	65	64	112	57	55
	20 ～ 24	299	151	148	249	131	118	207	108	99	171	85	86	132	65	67	95	47	48	82	41	41
	25 ～ 29	327	171	156	310	160	150	252	135	117	210	112	98	174	88	86	135	68	67	99	50	49
	30 ～ 34	375	189	186	329	178	151	309	165	144	250	138	112	209	115	94	174	91	83	135	70	65
	35 ～ 39	469	239	230	377	191	186	330	179	151	311	167	144	252	139	113	210	116	94	175	92	83
	40 ～ 44	580	288	292	474	239	235	381	191	190	334	180	154	316	168	148	255	140	115	214	117	97
	45 ～ 49	741	378	363	588	297	291	480	246	234	385	196	189	339	185	154	321	173	148	260	145	115
	50 ～ 54	736	390	346	751	385	366	594	302	292	485	250	235	390	200	190	344	189	155	326	177	149
	55 ～ 59	815	425	390	743	397	346	752	388	364	596	305	291	487	253	234	391	202	189	347	192	155
	60 ～ 64	849	439	410	800	423	377	730	396	334	738	387	351	586	305	281	479	253	226	385	202	183
	65 ～ 69	984	512	472	813	413	400	771	403	368	704	377	327	713	370	343	566	291	275	463	242	221
	70 ～ 74	1,109	547	562	929	476	453	771	387	384	733	379	354	671	356	315	681	350	331	541	276	265
	75 ～ 79	878	383	495	1,015	488	527	848	423	425	709	347	362	676	341	335	621	323	298	631	317	314
	80 ～ 84	738	308	430	751	312	439	878	405	473	737	354	383	620	292	328	595	290	305	549	276	273
	85 ～ 89	612	234	378	548	207	341	570	219	351	674	290	384	568	255	313	487	215	272	471	216	255
	90 ～	441	137	304	488	145	343	481	138	343	504	146	358	585	188	397	564	188	376	505	167	338

※令和2年の数値は年齢不詳を除いた実績値。

C0104 人口増減の内訳

人口増減の内訳をみると、自然動態は死亡数が出生数を上回り自然減が続いている。特に平成 20 年以降、毎年 100 人を超える自然減となっている。

社会動態についても、転入数より転出数が上回り、自然減とあわせ総人口の減少をもたらしている。令和元年、5 年、6 年については転入数が転出数を上回り、社会増になっている。

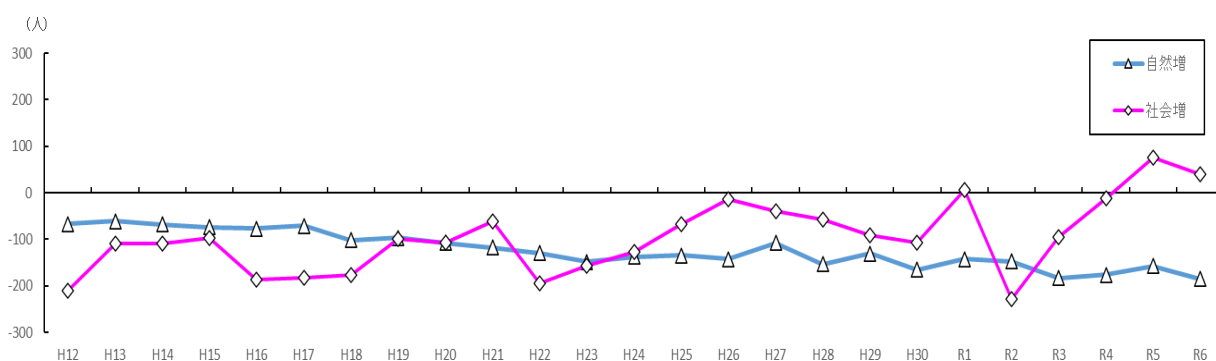
令和 2 年から令和 6 年までの 5 年間で、転入者は 2,228 人、転出者は 2,448 人で、平成 27 年から令和元年までの 5 年間で比較すると、転入者、転出者は減少している。

図表 1－6 人口増減の内訳（行政区域）

（山ノ内町調査(令和 7 年 3 月 31 日現在)）

項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減
	出生数 (人)	死亡数 (人)	自然増 (人)	転入数 (人)	転出数 (人)	社会増 (人)	
H12	103	170	▲67	468	679	▲211	▲278
H13	119	180	▲61	498	608	▲110	▲171
H14	98	166	▲68	466	575	▲109	▲177
H15	98	172	▲74	453	550	▲97	▲171
H16	97	174	▲77	429	616	▲187	▲264
H17	88	159	▲71	355	537	▲182	▲253
H18	71	173	▲102	357	534	▲177	▲279
H19	91	188	▲97	418	518	▲100	▲197
H20	70	178	▲108	368	475	▲107	▲215
H21	67	185	▲118	433	495	▲62	▲180
H22	70	200	▲130	371	565	▲194	▲324
H23	57	205	▲148	361	517	▲156	▲304
H24	53	191	▲138	378	505	▲127	▲265
H25	71	206	▲135	384	451	▲67	▲202
H26	55	197	▲142	436	449	▲13	▲155
H27	71	179	▲108	440	480	▲40	▲148
H28	45	198	▲153	427	484	▲57	▲210
H29	54	185	▲131	459	551	▲92	▲223
H30	57	222	▲135	466	573	▲107	▲272
R1	43	185	▲142	576	569	7	▲135
R2	47	194	▲147	352	580	▲228	▲375
R3	43	226	▲183	343	438	▲95	▲278
R4	40	216	▲176	397	409	▲12	▲188
R5	50	207	▲157	548	473	75	▲82
R6	37	222	▲185	588	548	40	▲145

図表 1－7 人口増減の内訳（行政区域）



C0105 通勤・通学移動

就業者の流出入別人口では、常住地による就業者は平成 27 年から 10.0%減少し、従業地による就業者も 10.5%減少している。流出率は増加傾向、流入率は減少傾向にある。

流出先としては中野市が最も多く 1,181 人(18.5%)、次いで長野市の 474 人(7.4%)、須坂市の 193 人(3.0%)の順である。流入先は中野市が最も多く 713 人(12.4%)、次いで長野市の 119 人(2.2%)、飯山市 82 人(1.3%)の順になっている。

通学者の流出入別人口では、常住地による通学者は平成 27 年から 17.0%減少し、従業地による通学者は 11.3%増加している。流出率は減少傾向、流入率は増加傾向にある。

流出先としては中野市が最も多く 126 人(33.6%)、次いで長野市の 82 人(21.9%)、須坂市の 43 人(11.5%)の順である。流入先は須坂市、甲斐市が 1 人(1.3%)となっている。

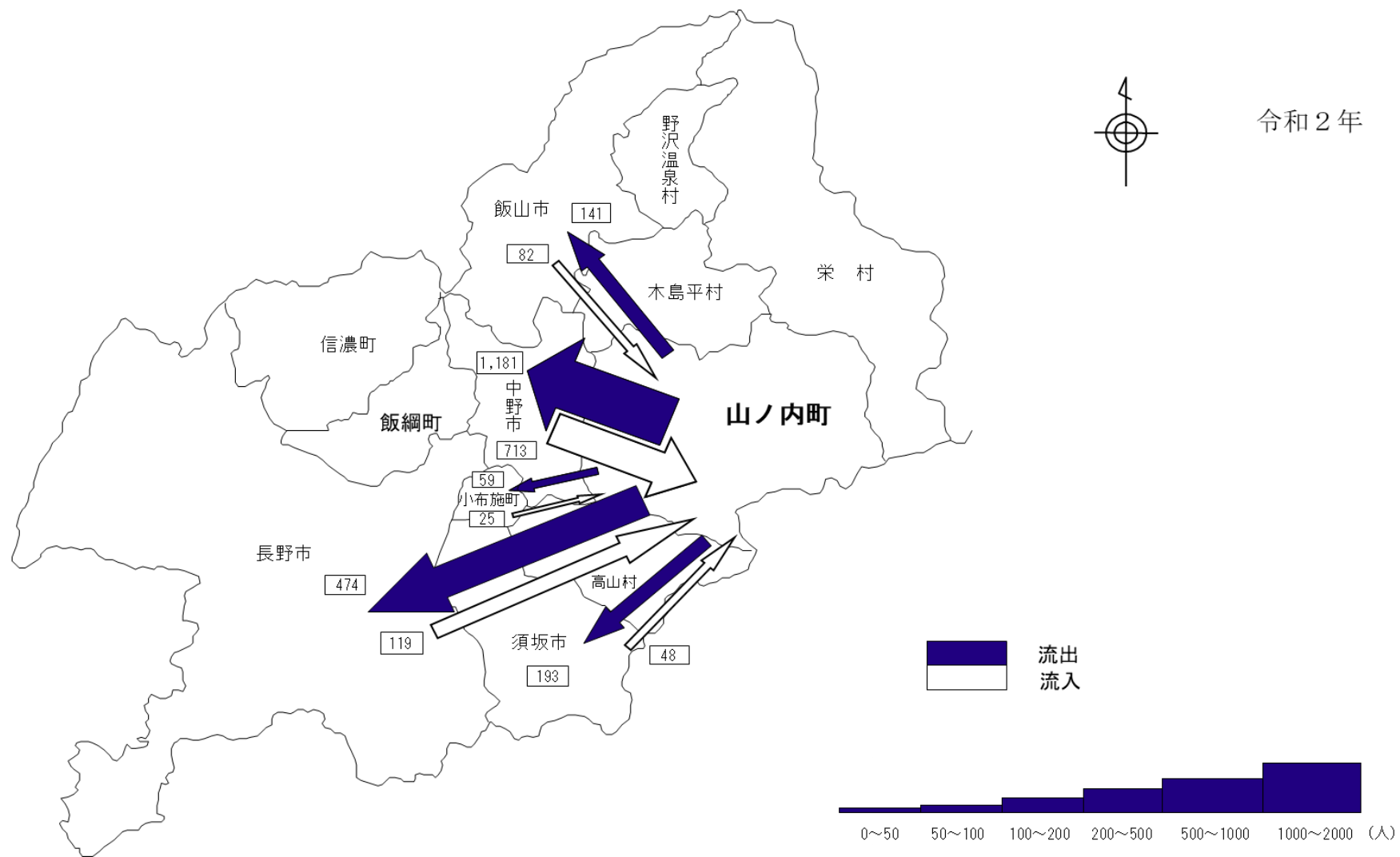
図表 1－8 流出・流入別人口（就業者）

（平成12,17,22,27,令和2年国勢調査 常住地・従業地における就業者・通学者数）

	常住地による 就 業 者 数	流 出		従業地による 就 業 者 数	流 入		従 / 常 就 業 者 比 率
		就 業 者 数	流 出 率		就 業 者 数	流 入 率	
平 成 1 2 年	人 9,936	人 3,138	% 31.6	人 8,074	人 1,276	% 15.8	% 81.3
平 成 1 7 年	8,428	2,481	29.4	7,239	1,292	17.8	85.9
平 成 2 2 年	7,587	2,448	32.3	6,377	1,192	18.7	84.1
平 成 2 7 年	7,097	2,386	33.6	5,926	1,200	20.2	83.5
令 和 2 年	6,387	2,217	34.7	5,305	1,104	20.8	83.1

	流 出 先														
	流 出 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
平成12年	中野市	人 1,695	% 13.1	長野市	人 723	% 5.3	須坂市	人 329	% 2.3	飯山市	人 132	% 1.1	小布施町	人 56	% 0.4
平成17年	〃	1,355	16.1	〃	556	6.6	〃	214	2.5	〃	141	1.7	〃	57	0.7
平成22年	〃	1,310	17.3	〃	561	7.4	〃	229	3.0	〃	120	1.6	〃	60	0.8
平成27年	〃	1,297	18.3	〃	522	7.4	〃	233	3.3	〃	146	2.1	〃	54	0.8
令和 2年	〃	1,181	18.5	〃	474	7.4	〃	193	3.0	〃	141	2.2	〃	59	0.9

	流 入 先														
	流 入 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
平成12年	中野市	人 811	% 8.9	長野市	人 106	% 1.2	飯山市	人 97	% 1.1	須坂市	人 67	% 0.7	小布施町	人 49	% 0.6
平成17年	〃	812	10.1	〃	138	1.7	〃	93	1.2	〃	57	0.7	木島平村	41	0.6
平成22年	〃	770	10.6	〃	124	1.7	〃	78	1.1	〃	58	0.8	小布施町	38	0.6
平成27年	〃	736	11.5	〃	128	2.0	〃	77	1.2	〃	60	0.9	〃	37	0.6
令和 2年	〃	713	12.4	〃	119	2.2	〃	82	1.3	〃	48	1.0	〃	25	0.5



図表1－9 流出・流入状況図（就業者）

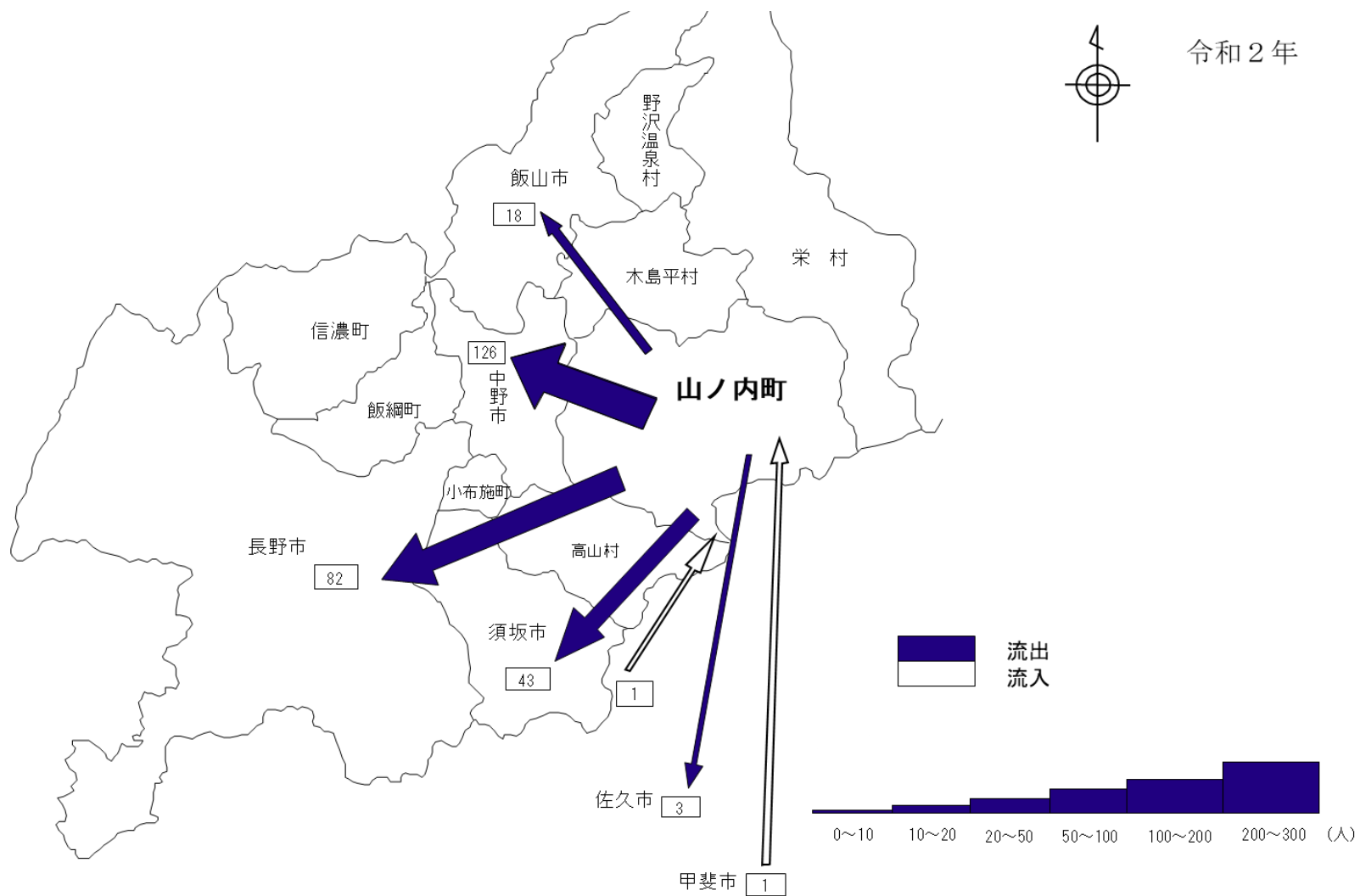
図表 1－10 流出・流入別人口（通学者）

（平成12,17,22,27,令和2年国勢調査 常住地・従業地における就業者・通学者数）

	常住地による 通学者数	流 出		従業地による 通学者数	流 入		従 / 常 通学者数
		通学者数	流出率		通学者数	流入率	
平成 12 年	人 748	人 628	% 84.0	人 121	人 1	% 0.8	% 16.2
平成 17 年	569	461	81.0	103	2	1.9	18.1
平成 22 年	556	474	85.3	97	2	2.1	17.4
平成 27 年	452	384	85.0	71	0	0.0	15.7
令和 2 年	375	309	82.4	79	2	2.5	21.1

	流 出 先														
	流出率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
平成12年	中野市	人 345	% 46.1	長野市	人 163	% 21.8	須坂市	人 101	% 13.5	飯山市	人 15	% 2.0		人	%
平成17年	〃	233	40.9	長野市	98	17.2	須坂市	92	16.2	〃	19	3.3	松本市	4	0.7
平成22年	〃	224	40.3	〃	112	20.1	〃	100	18.0	〃	16	2.9	木島平村	3	0.5
平成27年	〃	151	33.4	〃	101	22.3	〃	74	16.4	〃	18	4.0	松本市	4	0.9
令和2年	〃	126	33.6	〃	82	21.9	〃	43	11.5	〃	18	4.8	佐久市	3	0.8

	流 入 先														
	流入率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
平成12年	飯山市	人 1	% 0.8		人	%		人	%		人	%		人	%
平成17年	中野市	2	1.9												
平成22年	〃	2	2.1												
平成27年															
令和2年	須坂市	1	1.3	甲斐市	1	1.3									



図表1-1-1 流出・流入状況図（通学者）